

# WYINewsLetter No. 96

1980.1.15. 戦争抵抗者インター日本部・大阪市阿倍野区旭町2-12-2・ウリ大 発行

はなからちんちん

ハナチン ウリ事務所

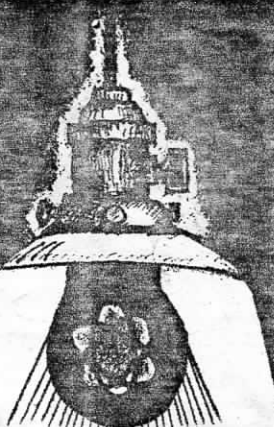
P.1

とてろろで……陶芸家で詩人の伊藤正吾さんが、昨年、ウリ事務所に向って、ボソリと話されたことが、妙に心にのこっている。「わたしにとっては、自分の食べる米と野菜ぐらいは、と有機農業をやっている。それでも、農薬は使わなければならない。まあ気安めかなあ。やー、空気が汚染されとるし、山から流れてくる汚染した水を使つて、田んぼもつくらんかな。もうどうにもならんわー」と。ホンマになあ、もうどうにも追いつかんとこまで、事態は進んでくるんとちゃうやろか。80年代は、いよいよなつきりと、終末が見えてくる時機のような気がする。

「こんなニュースをだしたり、デモをやったり、そんなことしても、もう、くだびれるばかりやなあー。へ運動へなんかやめてしもて、ひるねでもしよかなあ、なあおいちやん……」

「そうや。でもへ運動へやめるとしても、生きることやめるわけにいかへんで。……それに、へ生きるべいうことやけど、たゞ状況のままに流されるーということやで流されながらも、やはり決して納得のできるもんやないやろ。」

状況の流れに流されながら、時には泳いだり、木片をつかまそうとしたりするのがへ生きるシー生



**死の灰の 電気イラン**

**1月26日PM.1-扇町公園集合**

**電気料金値上げ反対**

**怒りの大デモ**

**せーたら!男たち!みんなあつまれ!**

値上げ反対 それからだ!

まず、扇町の終止を表明せよ

きていることの意味やろう。流れてうごいているというのとだけやたら死体でもうごく。流されながら、ときどき自分の意思でうごく、動けるということが、生きがいというが、自分にとって生きてるといふことになるんやないかなあ。へうごくへつまりへ運動するんことが、生きてるとやーとおもうで……

そやけど、三十何年も運動にみたいなことしてたらな、もうあまり「運動してる」という意識はないねん。つまり生きてることが「運動」なんや。それがまあ生きがいや。そやから、「運動」やめるときは死ぬときや、つまり、もう生きるのをやめたーということや……



申入書 関西電力(株)社長小林庄一郎殿。事故つゞき稼働率16%の原発による損失の穴埋めどころが、さらに原発建設の巨大な設備資金をつくり出すために、石油価格騰貴に便乗して、世論をたぶらかし、何と60%増をもの、電気料金値上げをしようとしているのは断じて承認できない。

まず、なによりも原子力発電所の運転をやめ、建設中止を表明せよ。！  
値上げの話は、それからだ！  
★日高に原発たてさせへんぞ！電気料金不払連合



「そうやろな。そやけど、なんかくたびれるなあ。おいちゃん……うごくいうことは……」  
うん、生きるいうことは、時々ほふまにしんどいことやねん。流れに流されながら、その流れの力に抗して、どううごくか、どう生きるか、いうことやもん。そこで、うごく方法の自分流の創造とか工夫とか、大きな流れに抗してでも、うごく、うごくことができるーということが、生きがいになつてくるんや。ぼくの運動いうのは、創造いうことや  
「よしや。正月そうそう、くたびれたような声を出さんと、ま、そろくたびれるときもあるわいな、つて、感心で、こころもいっしょにやつていきましょか……」  
(ふん)

などは、上を下への大さわざの対応。

昨年末の22・25・27日と、関西電力の電気料金値上げの策動に対して、先制攻撃のシヤブの一撃、ゲリラデモを、南のサービスマン支店・吹田営業所・堺営業所へとやらかして大いに楽しませてもらった。参加は、その営業所管内居住の、正産主婦グループ、阪和連合などで、多くて18人くらいで6人というものが、たった6人で、堺営業所

こちらは高性能ハンドマイクを駆使して、先方さんとのやり取りの音を、通行人はなうに及ばず、すわ何事と周辺の家々からとび出してきた人々にひびかせながら、はては「あっ今、関電さんはお客さんを笑きとばしましたア」と実況放送。さてその談判のやり方は、というと、まず一列横隊を玄P2

ニユース送付用、宛名記入、5月10日手配付着の封筒を事務所へ659号通(半年分)お送り下さい。紙代カンパ自由。

劇前にせうりとならんで、かねて用意の替装へモシモシ劇  
電・山林サン。の大合噺のくりかえし。

「困リマス。一体ナニゴトデスカ」といぎり立つ庶務課長  
や、駈り出された若手社員を尻目にして、つぎに出てくる  
かけ合い歌舞伎調の名セリフ。『あいや待たれい、劇電  
どの。』待てとおとめなされしは、値上げのことでござ  
るかな。『いかにも劇電、よく肉けよ……』  
そしてとめめは勸進帳ならぬ、丈余の白紙に墨痕リンリ  
とかきつらねたへ紅向状。それをひろげてマイクで読み  
あげると、みんなが大きくつぶくシユプレヒコール。

その一節ごとに太鼓やタンバリン  
の大合奏と、女性軍の黄色いトキの  
声のいやはやニギヤカなこと!!



その上、一団のいてたちはというと、全員がオレンジの  
色をあげやがなへ電球小僧の一面を頭上に冠り、胸と背  
なかには大プラカード『電気料金値上げをやめろ』。

とりわけ衆目をひいたのは、テレビ局松い下げの、等身  
大ぬいぐるみの大白鬼。とんだりはねたり踊ったり、胸に  
びらさげたプラカードは?と見ると、関西電力株券、百  
株券し、真正正銘の本物がペタリと貼つてあつて、へ原榮

事故の破産から、劇電を中る株主グループへ!

いよいよ最のさり上り、「申入れ書」手交のセレモニ  
になつて、代表者が所内へはいっていったあと、一段高い玄  
關敷地を舞臺に見立てて、立ちならぶ大の男の課長サンと社  
員の面々に、大きな耳をふり立てふり立て、この鬼チヤンが  
仕掛ける、身ぶりタツプりの一向一答。一しお高まる『モシ  
モシ劇電……の大合噺のなかで、私服サンもついつい登場く  
物になつての、まるでタノシイ童話劇? いやもう、お  
トギの国からぬけ出してきた鬼チヤンのしぐさのひとつひと  
つに、まるでムギになつてのコチンコチン、口とがらして相  
手する劇電サンのおもしろさ。おかしさ。お気の毒。そばか  
らみていて、こんなボンチ絵、めつたにお目にかゝれぬもの  
だった。

## 年末ギリギリデモの記

(こう)

- ★ 営業所へデモの前夜、まいにちビラ一万枚
- ★ 22日はテレビ、25日は新聞に報道され
- ★ それにしても、人数なんて向数やないネ。
- ★ 大人ぐらいが、やり方によつては最高。一人
- ★ 一人がみな主役で、いやあり、案外、やれる
- ★ もんやなあー、というのが何よりの興感デス。



## 印刷機購入基金カンパ・ありがとう、...

今更ほ早速、1月11日納品の新品を駆使してつくりました。まだ使いなれないので、  
すこし不手際で、それにプリンターのインク出しパイプが不調なので大苦心。カンパ  
は現在51名の方から22万円ちかくあつまりました。次いで改めて報告申し上げます。13日

大阪市あべの区旭町  
2・12・2

戦争抵抗者インター  
日本部

イオム通信





東京の「死刑制度撤廃」・「二回集合実行委員会」が、一月二四日を「死刑廃止運動の日」と定め、斗争ことをよびかけてきた。

▼一月二四日はいうまでもなく、一九二一年、七〇年ま  
 之のこの日、幸徳秋水ら十一名の人たちが、そして翌三五  
 日、唯一の女性實業家が、明治天皇暗殺テリチあげの大  
 逆罪の名のもとに、絞首台にのぼつていったことで、ぼく  
 には、決して忘れられない日である。

▼ またこの日は、その翌軍以降、きびしいあの「冬の陣」代しとよばれる弾圧と監視のなかをくぐつて、あとにのこされた堺利彦や山敬の仲間たちが、例年ひそかに墓参のためにあつまつて、死者たちの無量のおもいをうけつぎ、天皇制への問いの火をもちしつづけてきた、佐賀の行事とその志を次々につたえてきた日である。

△大逆罪△はいま、刑法のなかでは抹殺されている。

だが、たとへば東アジア反日武装戦線公判における、きひ  
 し法廷秩序維持の名目をかりた懲罰、そして大道寺・片岡  
 さんの死刑・黒川さんの無期、さらに荒井まり子さんがな  
 だ「反日思想をもち、反日武装闘争を支援した」というた  
 けで8年、などというおどろくべき判決ひとつをとつてみ  
 ても、それがもう抹消された過去のものに、などと云つて

おれもさういか。

▼ 國家が、その最高權力が、最大の憎惡と恐怖をもつて、その存在を抹殺したいと思つてゐるのは、「兇惡な」刑事罪犯ではなく、まづ何よりも確信思想犯であり、現代の大逆罪はそれへの「極刑攻撃」で死刑としてあらわれる。そして國家にとって「死刑制度」の存置は、人民が國家の當不當に一切おかれることをゆるさない、最後の意志として、その本音として存在している。

▼大阪でも東京のニニ四集會と連帶し、へ現代と大逆事件  
一天皇制と死刑制度を固うーというタイトルでのシンポジ  
ウム形式の集りを開くべく、16日その実行委が決定する。ひ  
ろく市民によびかけて大衆的あつまりとして、まずそのシン  
ポを成功させることから、運動の第一歩をつくりたいもの。三  
どうか力添えを。そして何よりも参加を！

みんなあつまれ！



▲1月15日附主10・才二回〇時岡山討論会終了(申込者限定)  
▲16日附6 不払い違ひつくり誹謗(於共同屋)「ワルイ」ハ「フ」即電ニ終局  
会する也 ▼16日附6 現代と大正事件申付委(於都港解放センター) ▼16日  
附1 高橋屋敷を「4」時公開ヒヤリ「ワ」持持女泡「シ」ボツウム(於山米市交々館)17日  
理地入抗武庫会と「モ」(岡森町中をミタシ) ▼24日午後豊田砲台と反響海水  
田中「シ」於本屋むむの「家」 ▼26日附1 (電報料金値上げ反対の大会)「モ」  
むかひけても「原案」に反対する女性らのグループ外(集合、扇町公園) ▼25日附7 10  
ニ「シ」ジャズ長崎青年会「ニ」アソロ(於京都ZABO「ワ」) ▼予定2月9日(現  
代と大正事件シンポジウム)向原「モ」来原「モ」作の交々申(於都港解放センター) R4